

自衛隊は撤退を 有事法案反対

イラク・ファルージャで米軍が報復攻撃し、住民が600人も犠牲になっています。イラクの人たちは、占領軍の撤退を求めています。各国軍隊が撤退を開始したいま、自衛隊の撤退を!

イラクで武装グループに拘束されていた日本人5人が全員無事解放されました。心から喜びたいと思います。しかし、イラクは、たいへん深刻な事態になっています。いま、あらためて自衛隊の派兵を続けていっているのか、問われています。

もともと自衛隊派兵に大義なし

もともとイラクに自衛隊を派兵すること自体が大きな誤りでした。無法な戦争を支持し、アメリカの軍事占領に参加するのが目的でした。

自衛隊は復興支援をしているといいますが、給水支援にしても、わずかなもの。もともと軍隊は戦争の訓練はしていても、復興支援に不向きです。

スペインに続け 平和の道へ

いまイラクから軍隊を撤退させる国が、スペイン、ホンジュラス、ニカラグア、ドミニカなど続いています。イラク国民は、軍事占領を拒否しています。占領をやめ、国連中心の復興支援の道にすすむためにも、自衛隊を撤退させましょう。

許すな! 有事法案

いま国会で審議されている有事関連法案は、米軍の戦争に自衛隊を参戦させ、国民を罰則付きで強制動員する憲法じゅうりんの法案です。反対しましょう。



ファルージャで何がおこっているか

軍事警備会社に勤める米国人4人が殺害された報復として、米軍はファルージャを包囲する大規模な軍事作戦を展開しました。イラクの人たちにとって、神聖な場所・モスク(礼拝堂)まで空爆し、無差別に発砲し、住民が600人死亡しました。大きな衝撃がイラク国民にひろがりました。このため、スンニ派もシーア派も協力し、全土で米軍反対の運動が高まっています。